

えでぴあ

立川と語ろう 立川に生きよう

November 2016

Écoutez Bien Vol.35 No.384

11

今、バチカンと立川が繋がる



バチカン図書館 とのコラボ

マレガプロジェクトがむすぶ国際交流

2011年、バチカン図書館が、
近世豊後地方の切支丹関係史料を大量に発見した。総点数1万数千点。
イタリアの宣教師 マリオ・マレガ神父が在日45年の間に収集し、
バチカンに送ったものだった。

マリオ・マレガ神父

1902年イタリア生まれで、ウィーンやトリノで教育を受けてサレジオ会の修道院に入ります。修道院はフランシスコ会やザビエル会など、いろいろありますが、マレガさんはサレジオ会。1929年に日本に来ます。途中出入りがありますが、1975年まで日本にいた宣教師です。

マレガさんは宣教師としてはあまり活動的ではなかったようです。宣教師の仲間たちもそれはもう諦めている。彼には研究をさせておくのが一番いいと。だからこの収集活動や研究に専念できたわけです。マレガさんは1929年、サレジオ会第2陣の宣教師として日本に来ました。第1陣は1925年にやってきています。記録を見ると、第1陣で来た人たちは「南米か日本かと自分たちは思っていた」とありますね。つまりヨーロッパから見たら日本は南米と同じようなものだったわけです。そこへ行ったらもう自分は戻れない。バチカン法王によって派遣され、本当に骨を埋めるつもりでやってきています。マレガさんも20代後半で宣教師として日本に来ていますから、その段階でもイタリアへ戻ることは諦めている。マレガさんがイタリアへ戻ったのは、1975年、亡くなる3年前でした。

マレガ文書

マレガ文書の中には、日本の古文書が1万数千点、その他にマレガさんのメモや書簡類などがあります。マレガさんは言語に関しては天才的なところがあったのでしょうか。最初に彼がやったのは、古事記の日本語訳なのです。それは今でも研究の成果として通用しています。江戸時代の古文書を解読して史料集も出版している。「豊後切支丹史料」は日本語で書かれ日本で出版された史料集です。それを利用してイタリア語の論文もたくさん発表されているのですが、日本の切支丹関係の史料をきっちと読んで、それをイタリアに紹介したということでも、マレガさんは最初の人でしょう。史料集の刊行によって、彼がたいへん貴重な史料を所有している、しかも、未収録のものが相当にあると日本人研究者たちは思いました。ところが戦後、史料についての情報が曖昧となり、行方不明となってしまった。今回はっきりしたのですが、1953年にマレガさんは史料をバチカンに送っていたのです。しかし、バチカンでもそれを忘れ、収蔵庫の奥の方で半世紀以上静かに眠っていた。2011年、図書館の職員が、何か変なものがあるぞと引きずり出してみたら、保存袋に入った大量の日本の史料だったと



いうことです。

地域的には豊後(大分)の臼杵藩の史料が大半で、宗門改めなどを担当した「宗門方」役所の文書です。他地域と違って、転び切支丹がたくさんいる。転び切支丹とは、切支丹から転んだ——近世初期のゆるい時代に切支丹になったのだけれども、禁制が強くなって改宗した人たちのことです。幕府は転び切支丹当人を含め五代に渡って監視します。転んだから無罪放免ではなく、ずっと追いかける。五代に渡って追いかける人たちのことを類族と言います。毎年類族調査があって、一般の人と



は扱いが違って非常に厳格というか厳しい。転んだのは誰で、この子は、その孫、そして曾孫とか玄孫とかというように追いかける。転びではない人に嫁いで子どもが生まれると、その子は類族になるというようなことで、村人は当然、藩も管理が大変なのです。でも幕府のお達しだから一生懸命にやる。管理や報告の関係で類族系譜などを作成することも行っていたわけです。

いろいろなドラマがあります。村に類族がいたら村役人がその管理に関わらざるをえない。家から出奔してなくなったなどということになると、その探索は熾烈です。そういうことが起こらないようにという藩や村の役人の苦労なども大変です。長崎など隠れ切支丹が多かったところでは、村人はお寺の檀家の形をとっており、お坊さんがやってきて弔いもする。でもお坊さんが帰った後で、弔いをやり直すわけです。もちろんお坊さんはそれをわかっていて、あとは頼みますよというようなことがあったといいます。

世界の東のはずれの国に、弾圧下で信仰を260年も守り通した人たちがいる。明治になって隠れ切支丹が現れる。それはキリスト教的には大変な驚きをもって伝え

られ、布教の関わる大きな神話となる。だから法話などでも度々取り上げられています。その弾圧時代の史料をバチカンが持っている。布教の歴史を物語るものですから手放せません。日本人がこれを返却して欲しいと言え言うほど、手放したくない。2014年1月、史料の発見をバチカンと日本で同時記者発表したのですが、AP通信とかAFP通信も大きく取り上げ、世界中のメディアが報じました。しかし、日本と各国では報道の中身が違っていた。欧米ではキリスト教布教との関連で報じたのですが、日本では歴史資料が発見されたと報道していた。彼らが見ているものと、僕らが見ているものでは史料の価値が違うのかもしれないですね。

マレガ文書の調査

2013年11月26日、正式に人間文化研究機構とバチカン図書館が調査協力に関する協定を結びました。有名なバチカン美術館は観光客も多いが、図書館は城壁の中にあって観光では入れません。図書館も大変大きな組織であり、とくに修復部門や撮影部門（撮影所）、研究部門が充実しており、修復部門では十数人の修復士がいて、12

世紀頃からの史料を修復しながらキチッと後世に伝えています。

調査方法をどのように提案するか考えました。日本人の研究者たちがやってきて史料が壊された、わけがわからなくなったと言われてしまったら具合が悪い。そういう意味でヨーロッパにおける史料調査のありようとか、レベルが気になりました。そこで、しっかりと説明責任を果たせるような調査、必要となれば元に戻せる可逆性に留意して、もちろん相談しながら進めました。日本における古文書調査をバチカンに持ち込んだということですが、結果、「日本はかなり丁寧なやり方だね」と言われています。日本仕様はバチカンでも通用するし、参加者が分担して作業を手際よく進めている点については驚いているようです。

2013年から現在までにプロジェクトがどのくらい進んだかということですが、作業レベルをいくつかに分けています。第1レベルはバチカンの収蔵庫の奥に保管されている21の保存袋を開封して、史料1点1点に番号をつける。つまり取り上げです。もとあった場所がわかるように記録しながら番号をつけて、戻せるように。その第1段階の調査が今年で終わります。4年間かかりました。

大友一雄氏

茨城県出身。日本史学者、アーカイブズ学者。専門分野は日本近世史、記録史料学。徳川林政史研究所研究員を経て国文学研究資料館。現在は教授・研究主幹。今般の「マレガ・プロジェクト」代表。九州で大友宗麟が打たれた後、その子孫が佐竹藩に預けられたという史実から大友宗麟とご関係があるのかとうかがうと、「ないですねえ。江戸時代、貞享年間に福島県いわき市にあった窪田藩のお家騒動で藩が潰されるんですが、僕のところはそこの中で茨城に土着した家系みたいで、あんまり面白くない」のだとか。ルーツがわかるのが羨ましい。

2段階は修復。日本は技術指導してバチカンが修復する。バチカンの修復士は以前から修復に和紙を使っており、裏打ちとか閉じた紐を直すなど、和紙使いに慣れています。今までにも全点チェックして数千点を修復しています。日本では修復部門が育っていない。所蔵史料をきちんと修復できるバチカンは欧州でも優れている存在かもしれませんが。やっぱりすごいところです。

次の段階がデジタル撮影です。バチカン図書館の撮影部門も大変充実しており、大きな撮影所が複数あり、世界のさまざまな機関・撮影技師が出入りしています。マレガ文書はバチカン図書館が撮影を担当しており、カメラではなく大型スキャナーを利用します。我々が撮影することも考えたのですが、所蔵者が自らの所蔵史料の写真も撮れないのでは問題と考え、古文書撮影の方法も伝えました。日欧では縦書きと横書き、右から左など書く方向が異なる。撮影技師にこうした情報から伝えたわけで、これも協力活動です。慣れるまでに数か月を要し、現在ではスムーズに処理が出来るようになりました。20mくらいの長い巻物もあり、スキャナーが威力を発揮します。史料へのダメージも少ない。横長の帳面、イタリア語・ドイツ語・英語の新聞など大型のものも簡単です。このデジタルのフォーマットが、jpg.とかtif.ではなくNASAの開発した非常に高細密な保存が可能なfitsです。バチカンはすべてこの仕様で、自らの所蔵物のデジタル化を進めており、マレガ文書とは直接関わりはないのですが、現在、日本のNTTデータなども関係しています。

デジタル画像が日本に届くと、文書目録作りです。手分けして20人くらいが担当して進めています。このプロジェクトには、国

文研では太田（尚宏准教授）とか、青木（睦准教授）、渡辺（浩一教授）、加藤（聖文准教授）などが参加しています。あとは歴博と東大の史料編纂所、大分県立先哲史料館、臼杵市の方々が関係しています。日本で切支丹関係の研究者が減ってきていることが残念ですね。

日本の役割

グローバル化が叫ばれますが、これを支えるのはやはりきちっとした調査とそれを支える基礎研究です。これができなかったらプロジェクトの基礎が固まらない。足下が盤石でないと飛行機は飛べないのですよ。だから相手が驚くくらいの技術力をもってあたらないと相手にされないのがグローバル。幸いにこの分野での調査の動向は、グローバル化される前に日本国内で相当積み上げられてきたものが、結構高いレベルにあった。それは一種のガラパゴスかもしれない。今回は世界の動向なども見極めながら、相手とちゃんとすり合わせてそれを持ちこんでいます。

保存や修復の中心になっている青木（准教授）さんとも話して、日本でやっている自分たちのものを直輸出するのではなく、バチカンの修復士との話や技術交流を通して、新しいモデル、マレガモデルを作り上げようとしてきました。10月にはバチカンと共同で、



日本の修復技術とバチカンでの取り組みをヨーロッパの人々に伝えるための研究集会、ワークショップを開催します。日本の歴史・伝統を直接語るのではなく、バチカンとの作業を通じて、バチカンと一緒に伝える方法がどのような評価となるのか、楽しみにしています。日本の歴史・文化を伝える方法としても興味深いものと考えています。

バチカンとの共同作業は、あと4年から5年続きます。文書の撮影、それによる目録作成、そして共同研究が一層進められることになります。なによりも、バチカンに日本の切支丹関係史料が大量にあることをもっとヨーロッパの人に知ってもらわないといけません。歴史文化を通じて相互理解が深まることで上質な交流やグローバル化が可能になるものと考えます。バチカンの史料は、我々にとって、またとない文化交流のための架け橋になるのではないかと考えています。その存在と価値を国際的な会議の場においても、積極的に発信することがプロジェクトの務めだとも考えています。

守るのは、 みんなの命！

いざ！ 自衛消防審査会

災害は、「ちょっと待って！」が通じない。
いつ、どんな時も、先頭に立ってみんなの安全を守る。
それが事業所自衛消防隊。

毎年秋に行われている事業所自衛消防審査会。初期消火の手順と消火栓の操作法を競う競技だ。参加団体は立川消防署の管轄内にある事業所。えてびあんでは毎年この審査会当日の取材をしてきたが、この競技に参加するまで、各事業所がどのような環境でどんな練習をしているのか、今年は事前の練習風景から取材させてもらった。

セキュリティの問題などで事業所内に立ち入れないチームを除き、取材許可の下りた13チームに密着。天候不順が続きなかなか思うように練習できないチーム、仕事のシフトの関係で3人が揃わないチーム、「うるさい！」とクレームが来てしまったところ、指導してくれる人がいないところなど、それぞれいろいろな問題乗り越えて、10月13日、審査会場となった泉町の応現院芝生広場に、男子隊16チーム、女子隊9チームが集結。練習成果を存分に披露した。

審査結果は次号に掲載予定だが、約2カ月弱の練習期間、どのチームにもドラマが生まれる。病気やケガを乗り越えて芽生えてくる愛社精神。思いのこもった熱い指導に先輩との絆が深まる。それぞれの事業所の若い力はすばらしかった。審査結果がすべてではない。本当にそう思った。

【参加事業所】

男子隊：㈱一如社・㈱ JR 東日本ステーションリテイリングエキュート立川・国立市役所・JR 東日本商業開発㈱グランデュオ立川・独立行政法人国立病院機構災害医療センター・宗教法人真如苑・東日本旅客鉄道㈱八王子支社立川駅・立川グランドホテル・立川市役所・㈱立飛プロパティマネジメント・㈱立飛ホールディングス・東京ガス㈱多摩支店・ビックカメラ立川店・ららぽーと立川立飛・陸上自衛隊東駐屯地

女子隊：㈱一如社・独立行政法人国立病院機構災害医療センター・宗教法人真如苑・特別養護老人ホーム砂川園・東日本旅客鉄道㈱八王子支社立川駅・立川市役所・㈱三越伊勢丹伊勢丹立川店・陸上自衛隊東駐屯地・㈱ルミネ立川店



立川市役所 男子隊



伊勢丹立川店 女子隊



立飛プロパティマネジメント



立飛ホールディングス



ルミネ立川店



19歳トリオの特別養護老人ホーム 砂川園



立川市役所 女子隊



立川男子隊



立川女子隊



一如社 女子隊



真如苑 男子隊



真如苑 女子隊



一如社 男子隊

えくてびあんの輪		
えくてびあんはリストのお店にあります。		
今月は 錦町・国分寺市・小金井市・昭島市 武蔵村山市・柴崎町 のお店です。		
錦町	たましん RISURU ホール	526-1311
	たましん錦町支店	528-0511
	カレー店 CHOTA	525-1004
	パン工房 グラティア	512-8667
	さぶ処 高尾亭	522-2710
	シェ いなば	529-592
	エステランテ ロズまり	529-3037
	Garden&Crafts Café	0120-412-877
	社会福祉法人 至誠学園立川	527-7734
	社会福祉法人 至誠ホーム	527-0031
至誠介護相談センター	527-0321	
立川市外	国分寺市 パンの店 フェルマータ	534-3334
	小金井市 ヒガコ ONLY FREE PAPER	
	昭島市 ECO'S 昭島店	546-3710
	武蔵村山市 国分料理 菜	561-7233
柴崎町	諏訪神社	522-2968
	(株) 毎日広告社	522-6121
	バスタビーン はしや	521-3386
	高島ビル	526-0111
	Hair Room MOON ZETTON	523-0961
	南武武剣道具店	527-0197
	ビジネスホテル 小沢屋	523-0388
	おしゃりカフェトークスペース	527-1636
	ESBI 立川南口店	526-2947
	タイアヨナヤレストラン	595-7295
	(株) 一心堂	527-3777
	すずの 歯科	540-2675
	紙匠 雅	548-1388
	あすなろクリニック	529-2756
	ソレール.Na	548-8788
	ビストロすき浦	525-9929
	入船茶屋	524-6266
	チーズフォンデュ&飲風カレー クワトロ	528-2983
	平割刺烹 トントン	524-4521
	Pasta Frolla 立川南口店	540-8033
	夢工房	843-7818
	コマツホーム	525-5811
	芹沢ガラス店	522-3065
	かみゆい処 わ	522-8202
	ファッションハウス ホマレヤ	525-2788
	ホテル ほまれ	523-0588
	ヘアサロン オオヌキ	528-0809
中国四川料理 山城	512-8356	
酒歩 たから	528-1510	
服地・洋裁材料 藤レディース	528-5101	
中華料理 北京大飯店	522-6393	
リサイクル着物 着楽堂	523-9702	
主婦羅・うなぎ 良銀	522-6702	
レンタルボックス きらら	522-3913	
生活雑貨 EAST END	523-9636	
特選し銘茶・海苔 菊川園	526-2035	
ジョイフルプラザ	0120-29-2775	
めんこ 堤屋	525-6602	
Hoccori*café	595-8379	
立川わかば整骨院	526-8518	
(株) 立川紙業	527-6111	
中華小皿料理 得得屋	528-1060	
手やきせんべい 雷神堂	521-5705	
石原薬局	523-4067	



新しい「立川」をご紹介します

①

読者の方からお電話をいただきました。立川に移転してきて土地勘がありません。少なくとも最近できた建物だけでもわかるような紙面をお願いします、と。そこで、何回かに分けて立川駅周辺のご紹介をしたいと思います。まずは最近新しい建物が多かったサンサンロード沿いから。いかがでしょう？ またご意見をお聞かせください。

[立川駅より北方面]

